

『神祇提要』 「三元神道三妙加持経」 抜粹

神坐ましますは、天道にあり、神坐ましますは、地道にあり、神坐ましますは、人道にあり。天に神道無ければ、三光有ること無し。また四時も無し。地に神道無ければ、五行有ること無し。また萬物も無し。人に神道無ければ、一命有ること無し、また萬法も無し。天地の心も、これ即ち神なり。諸仏の心も、これ即ち神なり。鬼畜の心も、これ即ち神なり。草木の心も、これ即ち神なり。山河大地、これ即ち神すなわなり。何いかに況いわんや人にをや。人は萬物の長なり。頭に七穴有るは、これ天の七星、腹に五臓有るは、これ地の五行なり。心こころというは、神なり。心こころと神かたちと形かたち無くして、而しかして形有るを養まう。これ真まことの神なり。神道かみちというは、天地を以もつて書籍と為なし、日月を以もつて燈明と為なす。(中略)仰おほぐべく信まかずべし。能よく思おぼいて益ます々深ますく思おぼい、慎つしみて怠おこること莫なれ。